

深海地球ドリリング計画の推進

平成19年度概算要求額：16,081百万円
 (平成18年度予算額)：9,952百万円
 ※運営費交付金中の推計額を含む

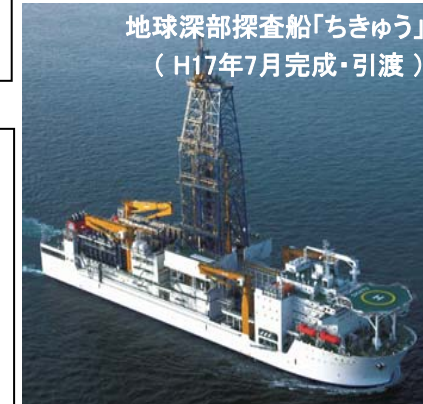
概要

人類未踏のマントルへの到達を目指す『地球深部探査船「ちきゅう」』を開発し、**統合国際深海掘削計画(IODP)**における国際運用に供することにより、地球環境変動、地球内部構造、地殻内生命圏等の解明を目的とした研究開発を推進。

現状

平成15年4月に文部科学大臣と米国国立科学財団(NSF)長官が覚書に署名し、IODPの基本的な枠組みを構築。平成16年に欧州海洋研究掘削コンソーシアムと中国が参加。平成18年6月には韓国が暫定アジアコンソーシアムを結成して参加し、現在参加国は21カ国。

平成17年7月に完成した地球深部探査船「ちきゅう」は、IODPにおける国際運用の開始を目指し試験運用を実施中。平成18年8月からは下北半島沖において掘削試験を実施し、その後、国際運用までに一層の運用経験を積むため、海外で掘削試験を行う。



スケジュール

平成18年度は、掘削試験に必要な最低限の体制で試験運用を実施。

平成19年度は9月から「ちきゅう」のIODPにおける最初の国際運用として、**熊野灘において東南海地震の発生メカニズム解明のための掘削・研究航海を実施**。初めてとなる**本格的な科学掘削の実施、国際運用体制の整備・習熟・運用、船上研究機器の整備等を行なうことが不可欠である**。

暦年	2003	2004	2005	2006	2007	2008
年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	
IODP	日米覚書 (H15.4.22)	欧州覚書 (H16.3.16) 中国覚書 (H16.4.26)		日米覚書等における「ちきゅう」運用開始 期限(H18.10)	現在の「ちきゅう」運用開始予定(H19.9) (IODP同年度内)	
	IODP開始 (H15.10.1)			● 暫定アジアコンソーシアム覚書(H18.6.20)		
地球深部探査船「ちきゅう」		機装工事	引渡 (H17.7)	試験運用	国際運用開始 (H19.9)	国際運用
			BOP設置試験等	下北沖掘削試験	海外掘削試験	熊野灘における研究航海の実施
			米国の掘削船を中心に実施			本格実施

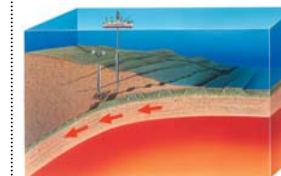
地球環境変動解明

過去の地球環境変遷の解明等



地球内部構造解明

プレートの運動機構の解明等



地殻内生命探求

超高圧・超高温環境下活動微生物の探索等

